

第3回 函館市補助金評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年(2025年)11月21日(金) 13:30~14:20
2 場 所 函館市役所本庁舎8階大会議室
3 出席委員 奥平委員長, 小形副委員長, 古地委員, 伊藤委員, 若松委員

【会議概要】

- 1 開 会
2 個別事業
の評価お
よび評価
のあり方
について

委員長

前回の委員会において、5つの個別事業について、所管課からの概要説明および質疑応答を行い、後日、各委員から個別事業の評価および今後の評価のあり方に関する意見をいただいた。

本日は、各委員からの評価や意見をもとに最終議論を行い、本委員会として、個別事業に対する意見を取りまとめるとともに、個別事業に対する評価と翌年度以降の内部・外部評価のあり方についての総括意見を取りまとめたいと思うが、いかがか。

(委員同意)

それでは、そのように進める。

「1. 個別事業の各委員の評価および意見について」進めていく。

[一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構補助金についての評価]

委員長

1ページ目が基本的視点のチェック、2ページ目が財政的視点のチェックおよびその他の意見であり、各委員からの意見・評価を記載している。

基本的視点については、Aの「適当」、Bの「どちらともいえない」の評価がほぼ同数となっており、記載のとおり意見があった。

- ・公益性が認められる 一方で、
- ・一部の団体のために補助金が支出されているように見える
- ・補助金で実施するマリンフェスティバル事業の目標が明確でないことから、必要性、妥当性や有効性も含めて考える必要がある
- ・自主性に関して、自主財源の見直しや確保、獲得に向けた具体的な戦略が見えにくい

財政的視点においても、使途や自主財源の確保の項目で、基本的視点と同

様の意見があった。

その他,

- ・情報発信に関する意見
- ・K P I の設定や自主財源の獲得方法の提案に関する意見があった。

これらを踏まえ、本委員会としての評価, 意見を取りまとめたいと思うが、確認や補足などご発言いただきたい。

(意見なし)

委員長

それでは、意見を総合的に判断し、公益性、積算内訳や積算基準などについて、適当と評価するが、

- ・マリンフェスティバルを補助金で実施することの必要性、妥当性、有効性を含めて改めて考えていただきたい
- ・補助事業を他の収入で賄うことができないかを検討する必要がある
- ・クラウドファンディングの活用などを含め、外部資金の獲得による自主財源の確保に努めることなどを、意見としたいと思うが、補足はあるか。

(意見なし)

そのように確認した。

[函館市社会福祉協議会補助金についての評価]

委員長

3 ページ, 4 ページだが、

基本的視点については、A の評価が多く、記載のとおり意見があった。

- ・社会福祉法に基づく組織であり、公益性が認められ、運営を公的資金で支える必要があり、補助金が手法として有効との意見がある一方、
- ・行政や他団体と重複している事業がないか精査する必要がある
- ・介護保険事業以外の収入源の確保に関する戦略が必要であるとの意見もあった。

財政的視点においては、自主財源の確保の項目で、

- ・経費支出の見直しをもって、自主財源の捻出が必要などの意見があり、

その他,

- ・事業の成果の定量的な把握などについての具体的な提案もあった。
- これらを踏まえ補足などはあるか。

(意見なし)

それでは、意見を総合し、公益性、必要性、積算内訳、使途、積算基準などについては適当と判断するが、

- ・他団体と重複している事業はないか精査すること
 - ・さらなる経費見直しなどにより、自主財源の確保に努めること
 - ・成果の定量化について検討すること
- を意見としたいと思うが、補足などはあるか。

(意見なし)

そのように確認した。

[函館国際観光コンベンション協会補助金についての評価]

委員長

5ページ、6ページだが、基本的視点については、自主性以外の項目で、各委員Aの評価が多く、記載のとおり意見があった。

- ・市の観光産業を支える団体として公益性があり、さらなる観光振興のため、官民一体となった取組の必要性がある
- との意見がある一方で、
- ・協会が行う事業の今後の戦略の必要性
 - ・行政と協会に対応する部分を明確にすべきではないか
- との意見もある。

財政的視点においては、自主財源の確保の項目で、

- ・会員獲得や収益事業の強化・充実に関する意見があり、

その他、

- ・市と協会の役割分担を明確に示すべきとの意見や、
 - ・補助金による成果の定量化や検証方法、収益化についての具体的な提案
- などもあった。

これらを踏まえ、確認や補足などはあるか。

(意見なし)

それでは、意見を総合し、公益性、必要性、使途、積算基準などについて、適当と評価するが、

- ・自主性や自主財源の確保の項目に関して、会員獲得や収益事業収入の強化、充実を検討し、自主財源の確保に努めること
 - ・市と協会の役割分担を明確化すること
- を意見としたいと思うが、補足等はあるか。

(意見なし)

そのように確認した。

[函館市町会連合会運営費補助金についての評価]

委員長

7ページ, 8ページだが,
基本的な視点については, Bとする評価が多く, 自主性以外の項目ではCの評価もあり, 記載のとおり意見があった。

・防犯, 防災や交通安全など, 住民自治振興のため, 公益性があり, 補助の必要性がある

との意見がある一方で,

・団体の役割が不明確であり, 公益性, 必要性, 有効性の判断が難しいとの意見もあった。

財政的視点においても, 各項目において, 基本的視点と同様の意見があり, その他,

・高齢化や人口減少など, 町会加入が減少している時代において, 連合会として, 町会運営の見直しを検討する必要がある

・町会活性化に向けた取組, 自主財源の確保についての具体的な提案などの意見があった。

これらを踏まえ, 確認, 補足はあるか。

(意見なし)

それでは, 意見を総合し,

・連合会の役割の明確化を図ること

・自主財源確保の検討や経費の見直しをすること

を意見としたいと思うが, 補足等はあるか。

(意見なし)

そのように確認した。

[函館市スポーツ協会運営費補助金についての評価]

委員長

9ページ, 10ページだが,
基本的な視点については, Bとする評価が多くなっているが, 公益性, 自主性の項目でCの評価もあり, 記載のとおり意見があった。

・スポーツ振興から強化育成まで, 実施事業が多岐にわたっており, 公益性が認められる

との意見がある一方で,

・加盟団体が少なく, 広く市民の利益につながっているのか疑問

・補助金に頼った運営を行っており, 自主財源を確保しようとする意思がないように見える

との意見もあった。

財政的視点においても, 各項目において, 基本的視点と同様の意見があり, 特に,

・自主財源の確保や、協会が行う事業の今後の戦略が見えないことから、判断が難しい
との意見があり、

その他、

・補助による成果の定量化や、収益化についての具体的な提案
・経費節減に関し、見直しが必要
などの意見もあった。

これらを踏まえ、確認、補足などはあるか。

(意見なし)

それでは、意見を総合し、

・自主財源確保の検討や経費の見直しを行うこと
・加盟団体や事業の参加者増など、広く市民利益につながるよう検討すること

を意見としたいと思うが、補足などはあるか。

(意見なし)

そのように確認した。

個別事業の各委員の評価および意見については以上となる。ここままで事務局から何かあるか。

財政課長

いただいた意見については、事務局で取りまとめのうえ、所管部局に伝える。

委員長

続いて「2. 評価のあり方に関する各委員の意見について」進めていく。

11ページだが、今後の内部・外部評価のあり方について、後ほど、本委員会として、事務局に見直しや改善を行ってもらう項目を、総括意見として取りまとめたいと考えているが、まず、(1) 今後の内部評価のあり方についての各委員からの意見を確認する。

記載のとおり、「基本的視点の定義と評価の基準について」および「評価にあたっての指標等について」の2つの視点について、

・各視点の概念の整理と評価基準の明確化
・現状のチェックシートの内容のみでは不明確な部分があることから、成果指標の記載があった方が良い

などの意見があり、チェックシートの見直しを求める内容であると思うが、これらの内容について、補足や質問などはあるか。

(意見なし)

続いて12ページの(2) 今後の外部評価のあり方についてだが、同様に各委員からの意見を主旨ごとに記載している。

・評価の継続的な実施、
・効果的な手法の検討、

・内部評価にも関連するが、評価に必要な情報や対象事業の選定についての意見があった。これらの内容について、補足や質問などはあるか。

(意見なし)

それでは、総括意見の取りまとめに移る。

「3. 総括について」だが、今回実施した、個別事業に対する各委員からの評価や意見、今後の評価に対する意見を踏まえ、

(1) 個別事業に対する評価

(2) 翌年度以降の補助金評価

に対する本委員会としての総括意見を取りまとめる。

(1) 個別事業に対する評価について、先ほど、今回実施した5つの事業については委員会としての意見を踏まえ、所管部局において、改善、見直しを図ることにしたが、5つ以外の事業においても、今回の意見を踏まえて補助金の執行に努めてもらうための留意点等を総合的にまとめたいと思うが意見はあるか。

(意見なし)

それでは、事前に各委員からいただいた意見を総合し、今回評価を実施した5つの事業を含めた補助事業に対して、

・公益性の確認として、

事業の方向性や内容の可視化に努めるなど、補助事業の効果が特定の団体等の利益だけではなく、広く市民の利益につながっているかを確認されたい。

・必要性の検証として、

補助事業者の役割や目的が不明確な事業も見受けられることから、市や類似団体が行う事業も含め、補助事業者が行う事業の必要性や、市が補助することの必要性を検証されたい

・有効性の検証として、

成果指標等を設定し、補助事業者が行う事業の効果については、可能な限り、定量的な評価に努められたい

・自主財源の確保努力として、

安易に補助金に頼り、自主財源の確保努力が伺えない事業もあることから、既存の経費の見直しはもとより、会員増や団体の事業収入の拡大による財源確保、さらには、クラウドファンディングなど、外部資金の獲得などを積極的に行うことで、補助金に依存せずに事業を続けられるよう、各団体に対して指導されたい

これらの意見を踏まえ補助事業を執行して頂きたいということを、委員会の総括意見としたいが、どうか。

(意見なし)

それでは、事務局を含め各所管課に対し、見直しの改善に努めてもらいた

い。

続いて(2)翌年度以降の補助金評価について、今後の内部評価および外評価のあり方に関する各委員の意見を踏まえると、

内部評価のあり方については、

・既存チェックシートの改善として、

他都市のチェックシートなどを参考にし、各基本的視点の定義の整理や評価基準、チェックのポイントを明確化するとともに、成果指標の設定をしっかりと行い、補助事業の成果を客観的、定量的に検証するほか、総合計画等との関連性を確認できるよう、既存チェックシートの改善を図りたい

また、外部評価のあり方については、

・チェックシートを活用した評価の仕組みとして、

内部評価における、客観的な成果指標の設定などのチェックシートの改善を踏まえ、その情報を取りまとめた一覧を活用した効果的な外部評価の手法も検討されたい

・個別事業の継続的な評価の実施として、

ガイドラインに規定する「5年以上見直しが認められない事業」、「補助割合が2分の1を超える事業」などについて、翌年度以降も継続的に実施すること

が、委員会としての総括的な意見になると考えるが意見などはあるか。

(意見なし)

それでは、そのように総括意見とするので、事務局においては、翌年度以降の補助金評価に向けて、取り組んでいただきたい。

3 その他
委員長

最後に各委員、また事務局から何かあるか。

A委員

今回評価を実施した5事業に関して、改善できることもできないこともあると思うが、所管部局および団体に伝えた結果の状況について、来年度以降、この場で報告などは予定しているか。

財政課長

来年度実施する本委員会で、進捗状況を可能な限りお示ししたいと考えている。

委員長

他に何かあるか。

B委員

今回、個別の評価や全体に対する評価のあり方について、民間と行政の思想の違いを感じた。行政は、予算を確保し、それをしっかり使って効果を出すという考え方だが、民間の場合は、目的のためにどうするかという順番で、非常にシンプルな考え方になる。

今回、評価をしてみて危険だと感じたのは、補助金を支出した効果のみで

見ると、効果が出ていないとなった時に、短絡的に廃止となるのがすごく怖いと感じた。目的があってその施策を実施しているのに、もし効果が出ていないのであれば、他の方法で効果を出すというふうに考えるところを、短絡的に廃止とならないでもらいたいと思う。

前回の議論の中で、ロジックという言葉が出たが、目的のためには複数の方法があり、そのうちのこの方法で、何年間かけてこのように進めてというような計画のようなものがあると、単年で効果があったかどうか、なければ別の方法ではどうかなど、評価がしやすかったのではないかと印象を受けた。

最後に、そもそも行政が行っている時点で、費用対効果の評価がきちり整理されるようなものではないと思う。事業性や投資採算性が型にはまるようなものであれば、民間がやっている。民間がやっていない、あるいは民間が単独でできないような、評価が難しい、お金のかけ方も難しいものだからこそ、公益性があって、市が実施しているものだと思うが、今はビックデータなど色々あるので、そういったところから、費用対効果の評価を定量化するという事は進めていただきたい。

1つひとつの事業を見ると、全部必要なことだと思うので、各団体のモチベーションが下がらないように、一定期間を設けて配慮しながら見直しを進めていただければと思う。

委員長 考え方の一番基本の部分は今、ご説明いただいたのかなと思う。やはり、目的に対して、どのように到達するのかという最初の部分が、どうしても補助金の場合は抜ける恐れがあるというところ。その目的の明確化が大事なのかなと思う。では、C委員から何かあるか。

C委員 私は、今回評価した事業は全て市民が求めているものと感じているが、補助金の交付を受けるにあたってはどの団体であれ、自分たちの財源を完全に見直して、本当に絞った上でいただけるものをいただいて、公共性のあるものを運営していくというようなやり方がよいと思っている。なので、やはりその団体がお金を生めるか生めないのか、経費節減ができるか、内部にいくらあるのかというのを、しっかりと見定めて、補助金を交付する、しないの判断をしていかなければいけないと思った。

委員長 資金を明らかにするという部分がやはり今後大事になると。明らかにした上で、その足りない部分を補助金が補うということ。補助金が先にあって、補助金をもらうためにやるのではなくて、という部分が今のご指摘かなと思う。D委員から何かあるか。

D委員 私は、この5つの事業は市で実施しているものと思っていたが、意外とそうではないんだということから始まり、特に補助金の占める割合が90%以上のものであれば、補助金を出さなかったら事業をやめてしまうのかという疑問もあった。今回評価するにあたって、たくさん資料をもらったが、1年、2年の財務諸表だけでは、判断できかねるところがあるのではないかなと。また、短い期間の中で5つの事業を評価するのは大変だった。よく知らなかった事業をまず知ることができた、運営主体が市ではなかったということを知れたことはよかった。

委員長

A委員から何かあるか。

A委員

評価の時に、今回、所管部局から話を伺ったが、市民が求めていることを感じているのは、普段やり取りをされている団体の方ではないかと思っていて、この場に出てこない目的意識も団体にはあるかもしれない。そういった思いも含めて団体の方に話を聞いてみたかったというはある。時間はかかるが、その方が、数字だけでは測れない部分、あとは効率性だけでは測れない部分というのが出てくると思う。1980年代以降、とりわけ2000年代から民間の考え方を取り入れながら、公的なサービスを提供していくという考えが強くなる中で、それによってサービスが向上した部分ももちろんあると思うが、それによってそぎ落とされてきたものがあるというのは、皆さん分かっているんじゃないかと思っていて、他の委員からも意見があったが、効率的ではないのでやめるという考えは、とても気をつけなければいけないことだと思う。だからこそ委員に民間の方が入っていることが重要だと思っていて、今回皆さんの意見から勉強させていただいた。まさに違いを分かった上で、評価をするということ。B委員が公益性や必要性などの話をされていたがそこが重要で、そのギャップに気づきながら、どのようにそこを埋めていくのかという作業をみんなでやっていきつつ、市民のニーズなどを考えていくことが非常に重要ではないかと思った。説明に来られた所管部局を叩けばいいとかそういう話ではなく、みんなで考える機会にしていけるという意味で、函館というまちにとってどういう意味があるのかを考えていくという点で、この場はとても意義があると思っている。

委員長

皆さまから感想をいただいたが、今よりさらに深くやるとすれば、事業仕分けみたいになってくる。民間団体にきてもらって話を伺うことになる。事業仕分けの時にあった事例として、団体の方と職員の方の意見が合わないということがあった。その場でずれが生じているということがわかった。そこまでやるかどうかというはあるが、市の財政状況が今後、好転するとは思えないので、やはり補助金の精査をしっかりと行っていくことが市民ニーズに応えていくことになるのかなど。より必要なものに予算を配分していくことが必要になっていくと思うので、今回の事業の選び方についても間違いはなかったと思うし、補助金団体にも、何のために補助金をもらっているのかということを再考する機会を持ってもらうことが大事だと思う。このまま続けてほしいと思っている。

4 閉 会

委員長

他にないようであれば今年度の委員会はこれにて終了する。スムーズな進行に協力いただき感謝申し上げます。

財務部次長

奥平委員長、ありがとうございました。今年度最後の委員会の閉会にあたり、財務部長よりご挨拶申し上げます。

(財務部長より挨拶)

財務部次長 | 本日の会議録については、各委員に内容を確認いただいたうえでホームページ上で公表する。本日は積極的な意見、忌憚のないご提案、意見をいただき誠にありがとうございました。